

関連する『つまずきポイント』

- ①自分の考えをもつこと
- ②日常生活や社会生活と結び付けること

書くこと領域

日常生活や社会生活にかかわることについて自分の考えをまとめること

に関するつまずき解消に向けた系統的な取組

姫路市立四郷中学校の実践

第3学年 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めること

第2学年 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で資料を集め、自分の考えをまとめること

第1学年 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること

	身に付けさせたい力の系統	各段階におけるつまずき
第3学年	社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めることができる。	異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
第2学年	社会生活の中から課題を決め、多様な方法で資料を集め、自分の考えをまとめることができる。	複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。
第1学年	日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。	設定した課題について、様々な角度から自分の考えを書くことができない。

つまずき解消に向けた取組の視点

①ペアやグループでの話し合い活動を行う。

- 他に説明することで、自分の考えを整理することができるようになる。
- 他の意見から、新たな考えを得たり、自分の考えを深めたりできるようになる。

②授業の振り返りを文章で表記する。

- 自分の考えを書く機会を多くすることで、書くことへの抵抗を減らすことができるようになる。
- 様々な書き方を指定することで、書く技術が身に付き、考えを書き表す力につながる。

第1学年

書くこと①

日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

書くことに苦手意識をもっており、テーマについて様々な角度から自分の考えを書くことができない。

書く問題は苦手だから、やめておこう。



「学校」というテーマだけど、どんな内容を書けばいいのかな……。

- 協力校で実施したつまずきの調査問題では、「書くこと」の領域で解答する問題は無解答率が高くなる傾向にある。
- 自校での作文についてのアンケートでは、「作文を書くときに困ること」として、55.0%の生徒が「どんな内容を書けばよいかわからない」を挙げている。

実践の概要

単元名

小学6年生に向けて学校紹介文を書こう

「学校新聞の記事を書こう」東京書籍

目標 小学6年生に向けて学校紹介文を書く。

内容 • 樹形図を使い、学校を構成する要素を項目立てて整理する。

• 紹介したい事柄をできるだけ多く考える。

• 考えた事柄を交流する。

• 挙げられたものの中から1つを選び、紹介文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第3学年	2つの異なる考え方の文章を比較しよう	異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
第2学年	様々な方法で資料を集め、スポーツについてのレポートを書こう	複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。
第1学年	小学6年生に向けて学校紹介文を書こう	書くことに苦手意識をもっており、テーマについて様々な角度から自分の考えを書くことができない。

単元末の目指す姿

- 課題について整理することで、進んで作文に取り組むことができるようになる。
- 他の生徒の意見を知ることによって、自分の考えを広げ、新たな視点で物事を考えられるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫①

樹形図を用いて構成要素を整理させる。

活動のねらい▶ 物事を考える際に、様々な視点があることに気付かせる。

ここがポイント

- 「学校」という大きなテーマを、生活・人・環境という項目に分ける。
- それぞれの項目について、例えば「生活」ならば、「学校での生活では、みんなはどんなことをしているだろう?」といった問いかけをし、授業や行事、部活動といった、具体的な下位項目を考えさせる。

樹形図を使い、項目立てて整理する



分類されているから、それぞれのつながりがわかりやすいな。

(期待される生徒の姿)

大きなテーマも項目に分けることで具体化できる。また、課題について、様々な視点から見て文章を書くことのできるのだという気付きにつながる。

つまづき解消に向けた指導の工夫②

★対話的な学びにつながる実践

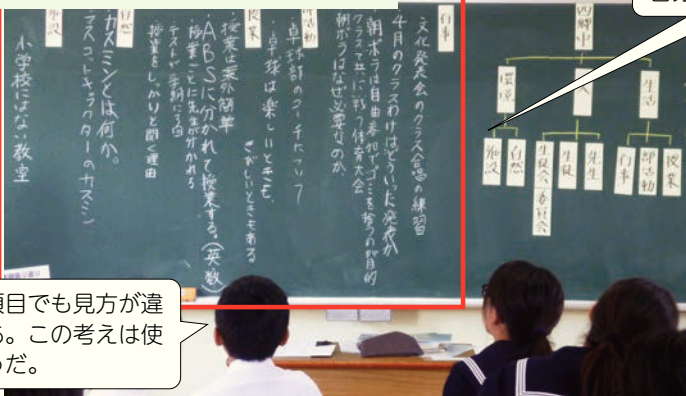
様々な意見を板書し、交流させる。

活動のねらい▶ 多様なものの見方に気付かせる。
• 書く内容を考えにくい生徒も、出た意見を参考にして考えられるようにする。

ここがポイント

- 樹形図にまとめた一番下位の項目について、具体的にどのようなことを6年生に紹介したいと思うかを、一文でノートに書かせる。
- 3つ以上書けた生徒からノートを点検し、その中からなるべく多様な意見を取り上げて、黒板に板書させ、全体で交流する。
※出た意見を参考にして考えてもよいことを伝える。

紹介したい事柄を黒板に書く



同じ項目でも見方が違うなあ。この考えは使えそうだ。

(期待される生徒の姿)

できるだけ多様な意見を取り上げ、それをクラスで交流することで、考えが広がり、それをいかして紹介文を書くことができるなど、対話的な学びにつながる。

第2学年

書くこと①

社会生活の中から課題を決め、多様な方法で資料を集め、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。

何か調べるときは、インターネットだけを使うなあ……。



複数の資料から自分の考えを書くには、どうすればいいんだろう？

- 自校での「調べ学習についてのアンケート」によると、「最もよく利用する手段」はインターネットと答えた生徒は、81.6%だった。また、「インターネットのみを利用する」という生徒も、32.6%いた。
- 単一の情報のみから自分の考えをもつことが多く、複数の資料を比較・検討して考えをまとめることが不得手である。

実践の概要

単元名

様々な方法で資料を集め、スポーツについてのレポートを書こう

「調べて考えたことを伝えよう」東京書籍

目標 2つの資料を使い、スポーツについてのレポートを書く。

内容 • 選んだ種目についての資料を、図書館やインターネットを使い、班で集める。

• 2つの資料を選ぶ。

• 資料を比較・検討し、レポートを書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	2つの異なる考え方の文章を比較しよう	異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
第2学年	様々な方法で資料を集め、スポーツについてのレポートを書こう	複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。
第1学年	小学6年生に向けて学校紹介文を書こう	書くことに苦手意識をもっており、テーマについて様々な角度から自分の考えを書くことができない。

単元末の目指す姿

- 書籍・新聞・インターネットなど、複数の資料を使い、課題について調べることができるようになる。
- 複数の情報を比較・検討し、そこから自分の考えをもつことができるようになる。



つまづき解消に向けた指導の工夫

書籍や新聞など、複数の資料を集める活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 目的に応じた資料の探し方を学ぶ。

ここがポイント

- 最初に種目の概要について百科事典で調べ、全体を把握してから、次にもっと調べたいと思った事柄の専門書を見るように指示する。その際、目次や索引を見ることも伝える。
- 資料を探す際には、今後公共図書館等での調べ学習にも応用できるよう、日本十進分類法の番号〔000総記（百科事典）700芸術（スポーツ）等〕も併せて説明する。

探し方を学び、班で資料を集める



百科事典で調べたら、おおまかな歴史がわかった。

この本には、詳しいルールが書いてある。

伝えたいことによって、取り上げる資料も変えた方がいいなあ。

ここがポイント

- 自分のテーマに合う資料を2つ選び、それぞれをまとめさせる。
 - それらを読み比べ、わかったことや考えられることを考察として書かせる。
- ※考察を書くことが難しい生徒には、2つの資料について、「共通しているところ、または全く違うところを探そう。」と、共通点や相違点に注目するようアドバイスする。

2つの資料を使い、考察を書く

体操の魅力
2年()組()番 名前()

オリンピックなどで体操競技での日本人の活躍を目にするが、私自身は、ほとんど知っていることがなかった。技や点数のことについて知りたいと思った。

2. 調査方法
体操について詳しく書かれている本で調べた。インターネットで、体操連盟のページを見て調べた。

3. 調査結果
(1) 体操の歴史の美しさとは…
体操は、演技の難しさを先、美しさを競うスポーツだ。演技は点数をつけるのだが、実は満点が存在しない。それは、1976年のオリンピックでデリア・フマナ選手が1点満点を2回も出したことから、変わったそうだ。全員が技のレベルだけを高めようとし、演技の美しさを見ることが見られなくなった。ちなみに現在では、難易度と美しさを分けて採点している。

資料1

(2) 各競技の特徴
体操で「美」と言われるのが、鉄棒、ゆかである。鉄棒…様々なバンの握り方がある。(傾き、逆手など…) 大空に浮かぶ逆手懸、ひねり技、回転する「車輪」などがある。(例)エンドー 倒立→屈伸ながら倒れる→同じ倒立 コバチ 鉄棒の上で回転して体操中から演技面から出たり、時間オーバーになると減点。(例)動物、植物、昆虫、花の図鑑がいろいろある。

資料2

4. 考察
2つの結果より、体操は、選手の名前が技名になったり、選手によってルールが変わるなど、各選手が生まれることで発展していくスポーツだと分かった。また、技の難易度だけでなく、奇抜さや最先、までの美しさも見られる感動を与えるスポーツだと分かった。技が成功したから完成。ではなく、何々まで美しく魅せようとする気持ちかすごいと思った。これから体操を見る時は、技はもちろん、その美しさに注目していきたい。そして、同じスポーツをする人として私も努力を見習いたい。

5. 参考文献
「スポーツなんでも事典 体操」
2008年11月20日 株式会社朝倉出版
「体操競技の採点方法の概要」
<http://fudoushi-taisai.sports.coccon.jp>

考察

(期待される生徒の姿) 各資料（書籍・インターネット・新聞等）の良さを理解し、用途に合った資料を集めることができる。また、複数の情報を比較・検討し、そこから自分の考えをまとめることができる。

第3学年

書くこと①

社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めること

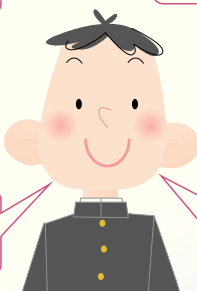
つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
(それぞれの意見を具体的に評価し、自分の考えに取り入れることができない)



A 「美とは、民族や地域や文化によって異なるものだ。」



B 「美とは、人間にとって共通のものである。」



どちらの考えもすごいなあ……。

2つの考えを比較するときのポイントは何だろうか？

実践の概要

単元名

2つの異なる考え方の文章を比較しよう

「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」東京書籍

目標 異なる意見の文章を読み比べて、自分の考えをもつ。

内容 ・「美・美しさ」について述べられた文章を読み、理解を深めて自分の考えをもつ。
・同じテーマで異なる意見の文章を読み、自分の考えを修正する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	2つの異なる考え方の文章を比較しよう	異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
第2学年	様々な方法で資料を集め、スポーツについてのレポートを書こう	複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。
第1学年	小学6年生に向けて学校紹介文を書こう	書くことに苦手意識をもっており、テーマについて様々な角度から自分の考えを書くことができない。

単元末の目指す姿

- ・要点をおさえながら、複数の文章を比較して読むことができるようになる。
- ・複数の異なる考えを踏まえながら、自分の意見を書くことが意識できるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

文章の中でポイントとなる部分や、キーワードを探させる。

活動のねらい▶ 筆者の考えの違いがわかる箇所を明確にし、そこから自分の考えをもてるようにする。

ここが
ポイント

- 筆者の主張が何かを推測し、それをもとにキーワードや主張が表れている箇所を考える。
 - 各自で何が書いてあったかを短文でまとめ、それについての考えを書かせる。
- ※様子を見て、何人かの生徒の文章を紹介し、書きにくい生徒の手がかりとする。

1つ目の文章を読み、
自分の考えと比較する



Aの筆者の主張のポイントは、「美しさ」は文化によって異なるものだ、ということだな……。ということは、Bの文章も「美しさ」という観点で考えてみるといいな。

(期待される生徒の姿)

主張が表れている部分やキーワードを確かめながら文章を読み、筆者の主張についての自分の考えを書くことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

2回に分けて文章を読み、考えを書かせることで、比較を意識させる。

活動のねらい▶ 筆者の主張に対する自分の考えを客観的に見直し、考えを深めることができる。

ここが
ポイント

- はじめの文章について自分の考えをもたせてから、異なる見方の文章を提示することで、新たな発見がしやすくなる。
- 上の事例で出されたキーワードをもとに、2つ目の文章を読む前後の自分の考えを比較させることで、視点が明確になる。

2つ目の文章を読んで、考えを追加・修正する



AとBを比較して、「美しさ」に対する2つの考えは異なると思っていました。でも、「美しさ」の基本になる部分は同じで、そこに地域や文化が影響しているので、根本的なところは同じ考えじゃないかと思うようになりました。

(期待される生徒の姿)

共通点や相違点をおさえながら2つ目の文章を読み、初めに書いた自分の考えと見比べ、意見を追加・修正することができる。